

石まぶと子ども（和田町）



むかしの和田の子どもたちは、野山を飛びまわり、木登りや、草花いじりなどをして遊びました。

石まぶを見つけると、

「おい。いけい（大きい）穴があるぞう。」

と、みんなを呼びました。

「どれ、どれ。」

「おもっせいな（おもしろいぞ）入って見るか。」

「うん、入って見よう。」

と、口うちに言いながら、中をのぞき込みました。

「くれえな（暗いな）。」

「うん、くれえな。」

「気持ちわりいな（悪いな）。」

「うん、気持ちわりいな。」

と、入り口で子どもたちがさわぐので、穴の中の

こもりがバタバタと音を立てました。

「なんか（何か）いるぞう。」

「いま、バタバタ音がしたな。」

「こもりやつたら血を吸われて死んでしまうぞ、

早よ逃げよ、逃げよ。」

穴の中から、まっ黒なこもりが飛び出すと、

子どもたちはびっくりして一目散に逃げ帰りまし

た。

こもりは、また暗い石まぶの天井にぶらりと、

ぶら下がりました。

石まぶのそばで遊ぶのは危険なので、親から

「遊んではいけない。」と注意されていたようです。